

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（高知大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。	
	大学回答欄
(感染防止に関する危機対策の体制)	令和2年3月に新型コロナウイルス感染症に対応するために「危機対策本部」を設置し、さらに「危機対策本部」のもとに「教育対策グループ」を置き、教育関係の対応策を検討、協議する体制を整備した。
(授業の実施方法)	令和2年4月に策定した「新型コロナウイルス感染拡大に伴う教育研究活動の実施方針」に基づき、感染拡大状況に応じた教育研究制限レベルでの「新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドライン」を策定し、授業等の教育研究活動を継続してきた。（現在は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための高知大学の活動指針」に改定） 対面授業における教室での3密を避けるため、新たにコロナ対策用の教室定員を定め、授業を講義系と実験・実習系に区分し、感染対策を十分に講じることが難しい授業はオンラインによる実施とした。 オンライン授業では教務情報システムに加え、同期型はzoomやMicrosoft Teamsなど、非同期型はmoodleを活用した。本学ではコロナ禍以前から学生全員にノート型パソコン必携（いわゆるBYOD）を早くから導入しており、moodleの整備やMicrosoftとの包括ライセンス契約によりオンライン学習環境は整えていた。令和2年度以降は、全学的なオンライン授業の実施により、システム利用者が急増したため、moodleサーバのスペックを増強・調整し、安定的なシステム運用を可能とすることで円滑な授業実施を支援した。
(学生へのサポート)	上記ガイドライン等は、本学のコロナ特設サイトや教務情報システムを通じて周知するとともに、授業ごとの実施詳細は受講者に対して教務情報システムにより連絡している。 オンライン授業を受講するにあたって自宅のWiFi環境が整備できていない学生には、モバイルWiFiルーターの貸し出しや学内ネットワークへの接続可能なオンライン専用教室を開講して受講できるよう配慮している。 また、令和2年度から全学生に対して各学期終了時に、コロナ禍における授業等に関するアンケートを実施している。それらの検証を踏まえ、オンライン授業に関するTips等に反映することで授業改善に活かしている。 さらに、学生向けのオンライン授業に関するマニュアル等を整備し、オンライン授業の受講をサポートしている。
(オンライン授業の実施・充実)	全学的なオンライン授業の実施に伴い、教員向けマニュアル等の整備を行い、円滑なオンライン授業の実施、コンテンツの充実を図った。 また、併せてオンライン授業に関するFDの全学・各部署での実施、オンライン授業に関する質問・情報共有のためのTeamsチームの作成等により、効果的なオンライン授業の実施に向けて組織的に取り組んでいる。
2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。	
	大学回答欄
	授業料納付期限及び口座振替日の延期：納付期限及び口座振替日を約2か月遅らせた。
	コロナで家計急変した場合の第2学期分授業料免除を実施した。
	高知大学緊急学生支援金：学費負担者等の収入や学生本人のアルバイト等による収入が激減し、経済的に困窮している学生へ3万円を給付した。
	コロナ禍における学部1年生への教材費・食費等の緊急支援：高知大学生生活協同組合の電子マネーまたは利用券3千円を配布した。
	交換留学生等外国人留学生への経済支援：全学の支援制度の対象とならない非正規の留学生に対して高知大学緊急交換留学生等支援金（1人3万円）及び通信環境支援費（1人1万円）を支給した。
	外国人留学生への新規渡日経費支援：本学への入学のため新規渡日する外国人留学生のうち、コロナに関する水際対策により宿泊施設で14日間待機した者に5万円又は宿泊費のどちらか低い方の額を支援した。
	学生の通信環境の整備支援策：通信環境がオンライン授業に対応できない学生を支援するため、1,000万円を学生の現員数で按分し、各部署に配分した。
	「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』：国が実施した10万円（20万円）の現金給付によるもの。
	一般の方、企業等からの食糧等支援：外部からの寄附によるもの。